

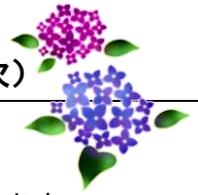


研究だより

佐賀県立唐津特別支援学校
2025(令和7)年6月発行
研究部 第1号

令和7年度の研究主題

子どもが主体的に活動する姿を目指した授業づくり ～一人一人の「できる状況づくり」と各教科等の視点をふまえて～(3年次)



色鮮やかな紫陽花が咲く季節となりました。研究だより第1号を発行します。
研究だよりでは、本校の研究推進に係る取り組みについてお知らせしていきます。
第1号は、今年度の研究主題と、5月22日に行った合同学部研究会について紹介します。

★研究部の紹介★ 一年間 よろしくお願ひします



小学部	北村(チーフ) 緒方、酒井あ、田中、藤井
中学部	宮田(チーフ) 岡、永石、福山(主)
高等部	前島(チーフ) 野崎(副)、平原、川頭

研究会が、皆さんの「協同的な学びの場」になるよう、力を合わせて頑張ります！
「本校の教育」や研究についてのご質問等があればお気軽にお尋ねください。

(1)研究主題について

本校は開校以来、「子どもが主体的に活動する姿」を目指して、教育課程の中心である「各教科等を合わせた指導」において授業研究を積み重ねてきました。子ども一人一人の「自立」は、子どもが主体的に「する」活動から培われます。そして、子ども達の自立的な姿を育むためには、子ども自身が活動に意味を見出し、目当てや見通しをもって主体的に取り組むことが大切です。本校では、今後も継続、発展しながら「子ども主体の学校生活づくり」を追求していきます。

今年度も、小学部・中学部・高等部の教育課程（I課程は除く）に共通して設定されている「生活単元学習」を中心に研究を進めます。冒頭の太字で示している本校が大切にしている考え方の共通理解を図りながら、「各教科等を合わせた指導」の授業づくりについて理解を深めることで「子どもが主体的に活動する姿」を目指した授業を充実させていきます。

(2)サブテーマ「できる状況づくり」について

「子どもが主体的に活動する姿」を実現するためには、子ども一人一人が主体的に活動できる状況を、教師がつくること(=「できる状況づくり」)が大切だと考えます。「できる状況づくり」の内容は、単元のテーマ設定や実際の授業で使う補助具づくり、教師の関わり方などの工夫や場の設定など多岐にわたります。子ども一人一人の様子に合わせた「できる状況づくり」を充実させ、より良い授業実践に繋げていきます。

(3)サブテーマ「各教科等の視点」について

知的障害のある子どもの学びの姿から、本校では「各教科等を合わせた指導」を教育課程の中心に据え、具体的・実的な指導を行っています。生活に即した具体的な各教科等の内容を実際の生活場面の中で主体的に取り組むことで、各教科等の内容を自然な形で学ぶことができると考えています。『授業計画シート(または指導略案)』を使った授業づくりにおいて、『個人のねがいシート』を活用して個別の指導計画の「自立活動の指導のねがい」を確認するとともに、育成を目指す資質・能力と各教科等(自立活動を含む)の視点で個人のねがいを整理することで、「子どもが主体的に活動する姿」を目指した授業づくりに取り組んでいきます。

今年度は、校内研究の趣旨を以下のようにまとめ、全職員で共通理解を図りながら取り組んでいます。

『🌟からとく🌟校内研究のキーワード』

1 子どものニーズに応じた教育

子どもの多様なニーズを考慮した授業内容を検討し、より効果的な支援を提供する方法を探る。

2 授業改善

「子ども主体の学校生活づくり・授業づくり」を進めるために、より良い方法を探り、教員同士での情報交換を行う。

3 協同的な学びの場

教員同士が「協同的な雰囲気の中で」共に学び合い、授業づくりや授業実践、授業参観等を行い、専門性を高める。

校内研究は、「子ども達が主体的に活動する姿」の実現のために『全職員で学び、考え、意見を出し合いながらよりよいものにしていく』という考えのもと教育の質を向上させ、子どもの学びを支援するための重要な取り組みの一つである。

5月22日 合同学部研究会を行いました

今回の研究会では、「各教科等を合わせた指導」における、授業づくりの基本的な流れを全職員で共通理解しました。子ども一人一人や共に学ぶ集団の様子を踏まえた生活単元学習のテーマ（単元名）や活動内容の設定について、具体的な考え方や設定の仕方を確認した後、学年団等に分かれてグループワークを行いました。おもに6月下旬から7月にかけて実践する生活単元学習について、マンダラチャート（※）を活用して、テーマ設定や具体的な活動内容のアイデアを出し合いながら、授業の構想を練っていきました。研究会後の感想として、「子どもの様子を、多様な視点で捉えることができた」「一人では考えつかないアイデアが出てきて面白かった」「実際の授業に生かせる具体的な活動内容が次々に出た」「普段の授業づくりでもマンダラチャートを活用した話し合いをしたい」という声が多く挙がり、充実した研究会になりました。また、職員同士が共感と肯定の姿勢で



向き合いながら話し合いに取り組むことや、職員チームの協同的な雰囲気作りの大切さについて再確認することができました。今回の学びを今後の授業実践に生かしていきたいと思えます。

（※）マンダラチャート…9×9のマス目からなる、目標達成ツール。

目標達成までのプロセスを明確にするためだけでなく、アイデアを生み出すため、課題を解決に導く道筋を可視化するためにも活用されている。

【参考：miro “マンダラチャートとは？”

<https://miro.com/ja/brainstorming/what-is-a-mandala-chart/>】

年間研究計画

<全体>

4/14（月）研究推進委員会①

4/24（木）全体研究会①「本校の教育について」

5/1（木）全体研究会②「全校研究主題について」

5/22（木）合同学部研究会「子どもが主体的に活動する姿を目指した授業づくりについて」

8/20（水）研究推進委員会②

12/16（火）高等部公開授業研究会
※講師招聘

2/25（水）研究推進委員会③

3/9（月）全体研究会③「今年度のまとめ」

<各学部>

学部研究会（月1～2回） 学部内授業研究会（年1～2回）

第2号は10月頃
発行予定です。

